

## 令和4年度 第3回「地域連携担当者」等新任研修 開催報告

- 趣旨 生涯学習・社会教育の専門的知識の習得ならびにコーディネート能力の向上を図るなど、社会に開かれた教育課程を実現する上で学校と地域を結ぶ指導的役割を担う教職員の資質向上を図る。
- 主催 滋賀県教育委員会
- 対象 県内「地域連携担当者」等新任研修受講者
- 日時 令和4年10月20日(木)  
午前(9:30~12:00)の部 : 【中学校・特別支援学校・高等学校】対象  
午後(13:30~16:00)の部 : 【市町立小学校・義務教育学校】対象
- 会場 滋賀県庁新館7階大会議室(大津市京町四丁目1番1号)  
オンライン(Zoom)併用による開催
- 内容 ○午前の部 【中学校・特別支援学校・高等学校】対象  
(1) 事例紹介 ・近江八幡市立八幡中学校 教諭 柳内 祐樹 氏  
・県立長浜北星高等学校 教諭 中原 洋明 氏  
(2) グループ別情報交換  
(3) 閉講式  
○午後の部 【市町立小学校・義務教育学校】対象  
(1) 事例紹介 ・草津市立渋川小学校 教諭 鶴飼 裕美 氏  
・米原市立河南小学校 教頭 宮元 信彦 氏  
(2) グループ別情報交換  
(3) 閉講式

7 参加者数 117名(来場30名、オンライン87名)

### 8 事例紹介の概要

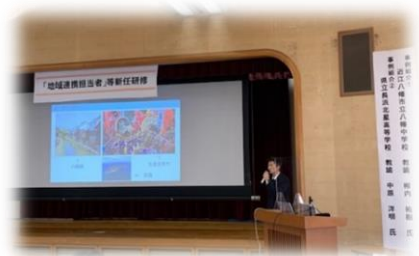
#### ○近江八幡市立八幡中学校

生徒・地域・保護者・教員が熟議することを通して、より良い八中を創るきっかけづくりとするために数年前から実施している

「八中サミット」について紹介いただきました。同心円チャート「えんたくん(円卓ん)」を使って参加者が主体的に学校課題について熟議している様子を見せていただきました。また、地域連携担当として「当事者意識」を持つことで地域と学校をつないでほしいという思い、ちょっとした工夫が学校を変えるという熱い思いを伝えていただきました。

#### ○県立長浜北星高等学校

「トマトでつながる高校生」と題して、長浜市の長浜農業高校、長浜北星高校、虎姫高校の3校が協力して取り組んだ「高校生による長浜市特産品プロデュース」プロジェクトについて紹介いただきました。複数の高校が協力して開発していくことで、それぞれの専門学習をより深化させることができ、コミュニケーション能力の向上にもつながることを伝えていただきました。それぞれの学校の特性や良さを生かした取組で、新たな連携の形を教えてくださいました。



### ○草津市立渋川小学校

渋川ESD(いいまち・しぶかわ・だいすき)の取組について紹介いただきました。地域のヒト・モノ・コトによって充実した体験ができ、人とのつながりが地域・ふるさとへの愛着につながることを教えていただきました。また、人との出会いをとおして学ぶ実践を多数ご紹介いただき、学校と地域の連携の様子を見せていただきました。参加の皆さんに、「できることをできる範囲で無理なく持続可能な形で」とメッセージを送っていただきました。



### ○米原市立河南小学校

「河南学区に住むすべての人が笑顔になれる取組の実践」がテーマであるコミュニティ・スクールの取組について紹介いただき、「地域とともにある学校」について提案していただきました。地域連携について、①地域コーディネーターとこまめな連絡を、②OODA (Observe: 観察、Orient: 方向づけ・仮説構築、Decide: 選択、Act: 行動) で現状を分析し、よりスピーディーに、③お互いにメリットが生まれるwin-winな関係に、ということをおアドバイスしていただきました。

## 9 参加者のアンケートより

### 【午前の事例紹介】

- ・生徒主体で、教職員も地域の方もコーディネーターも、楽しんで取り組んでいるところが素晴らしいと思いました。ちょっとしたアイデアや工夫を仕込みながら、日頃から先生方が前向きに取り組める雰囲気づくりをされているところは理想的で、お手本にしていきたいです。
- ・「当事者意識」は、まさに、子ども・教職員・地域が手を取りあって、“自分たちの手で学校を盛り上げよう”という思いを持って、楽しんで活動できることだということがとても伝わりました。
- ・地域とのつながりを意図的に実践しておられ、地域愛を育成されていること、自分の学校のことを好きになれる取組が素晴らしいと思いました。また、生徒会の活気ある姿がすごかったです。
- ・生徒会新聞を毎日発行されていて、それが地域への情報発信に役立っているということで、大変素晴らしい取組だと思いました。
- ・学校間のつながり、企業とのつながりは本校が次の目標としているところであり、大変参考になりました。次のモチベーションになりました。
- ・いくつかの高校が連携して学習していく様子が印象的でした。また、進路への影響もあったり、生徒の責任感なども学習の充実感に至っていると思いました。
- ・地域と学校をつなぐ役割の大切さを学ぶことができました。
- ・学校間連携も密にしながら、生徒たちの住んでいる地域の活性化を目指し、地域連携から住みやすい、活力ある街づくりに繋げていきたいです。

### 【午後の事例紹介】

- ・地域の方と連携をうまくとりながら、学習支援の体制を整えておられることがわかりました。子どもたちの学びが充実したものになるよう、地域の魅力を生かしながら、組織で動いていくことが大切であると気づきました。
- ・地域連携担当教職員の役割の一つとして「地域のお宝さがし」という話がありました。地域と学校が一体となり学校教育を進めていくうえでとても重要だと感じました。子どもたちが育つ地域には、たくさんの人材、環境があると考えます。それを教育活動に生かすことが担当の役目だと感じました。
- ・「できることをできる範囲で無理なく持続可能な形で…」学校と地域を上手につないでいけるように、何ができるか考えていきたいと思いました。
- ・子どもにとって、学校にとって、地域にとって、三方よしの取組ができるように、これから生かしていきたいと思います。
- ・地域連携で気を付けたいことの一つに、「win-winな関係に」と述べられており、長く続けていくた

めには大切なことだと感じました。

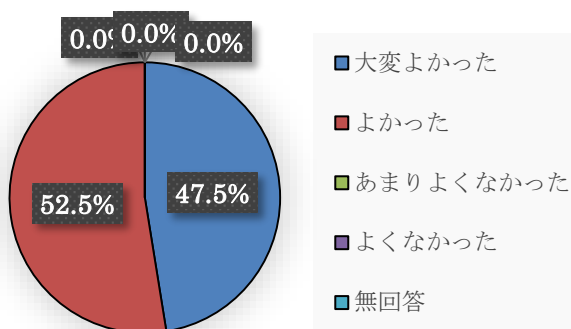
- ・コミュニティ・スクールのテーマがわかりやすかったです。学校教育への積極的な関わりが、やがて地域の教育力の向上につながっていることがわかりました。
- ・地域連携の具体的な取組の内容について知ることができ、今後の本校での取組の参考にすることができました。さまざまな形でアプローチし、担当者が積極的に地域との関わりを作っていくことが大切だということを感じました。
- ・ボランティアの輪を広げるために参考になることがたくさんあり、勉強になりました。保護者や地域の方にとって、地域連携で何をしているのかがイメージできるように、ブログなどにあげることは有効だと感じました。

### 【グループ別情報交換】

- ・校種ごとに様々な工夫や苦勞があることがわかり、勤務校で生かせるものがあり、大変大きな学びとなりました。こういう機会が年に数回でもあると、情報交換・交流ができてよいと思いました。
- ・学校により活動できる条件が異なる中、共通のキーワードは「発信」だと感じました。
- ・校種の違う先生と話ができ、よい刺激になった。それぞれの校種で必要なニーズを出し合い、情報交換を行うことで、生徒の成長につながるような中高連携でありたいと改めて思った。学校も地域も主体性をもつことで、引き継ぎもスムーズに行くのではないかという意見が出た。
- ・他校の取組を聞くことで、「これはうちでもできるかも」とか「これやってみたい」と思えてきて、イメージが膨らんだことが収穫でした。
- ・同じ立場で頑張っておられる先生方の生の声を聞くことができたのがとても良かった。
- ・CSの仕組みができてい学校は、地域連携担当者が変わろうが、誰が担当しようが、持続可能な仕組みができていると聞きました。
- ・テーマに自由度があったので話しやすかったです。特に、地域連携担当者として課題に感じていることや悩んでいることを共有でき、他校の実践を参考にすることができました。
- ・地域への愛情が一番。異動はあるが、いるときに思いきりその地域を楽しんでいきたいと思う。
- ・「わかる、わかる！」という言葉に励まされました。



(1) 地域連携の取組にかかる事例紹介について



(2) グループ別情報交換について

